

インプラント治療におけるトリートメントワークフローの変遷 Transition of treatment workflow for Implant



Toyokazu Chiba

千葉 豊和

医療法人社団豊翔会 南2条千葉歯科クリニック

ここ数年来、日常の歯科臨床においてデジタルデータを活用した臨床術式は日々進歩の一途をたどり各種ソフトウェアの開発とともに、より実用性が高く各々の場面で応用されてきている。演者は2014年以降本格的に口腔内スキャナーの日常臨床への応用を開始した。当初の使用目的としては、国外で発表されていたソフトウェア「3Shape Implant Studio」を活用して口腔内スキャンデータとC B C Tデータのマッチングを行いその画像上でのインプラント埋入ポジションのプランニング、およびその位置を再現するためのサージカルガイドを3Dプリンターによって再現するとともに最終上部構造までも術前の段階でデジタルデータにて作製するというものであった。その後、口腔内スキャナーの活用は天然歯上部構造作製における精度確認を行った上での使用、診察診断、患者説明用ツールとしてのソフトウェアが開発されとことによるコミュニケーションツールとしての応用、さらには治療過程でのプロビジョナルレストレーションのスキャンデータを最終上部構造にコピーするなど様々な状況において試行錯誤的に臨床に取り入れてきている。また、最近では顔貌の3DフェイススキャンとC B C Tデータを同時に撮影しそのデータに口腔内スキャンデータをマッチングさせることによりインプラントのプランニング、ガイドの作製のみならず補綴治療における上部構造の作製などをオールインワンで作製可能なソフトウェアも登場し活用を開始している。このような新しいトリートメントワークフローは現時点で臨床的精度が確約されていない部分があることから検証に時間を有してしまうことも事実である。しかしながらその上で確立されたデジタルによるワークフローは我々が今まで行ってきたアナログのワークフローと比較しても患者、術者、歯科技工士全ての側面において飛躍的に有効な手段となり得ることも事実であり、今後の臨床手順を根底から変えていく事は間違いない。そこで今回演者は日々変遷し、今後とも変化していくトリートメントワークフローについて現時点で考えられる治療手順、歯科技工士との連携について解説を加え報告したいと思う。

【略歴】

- 1989年 東北歯科大学 卒業
- 1993年 奥羽大学歯学研究科 卒業
- 1993年 奥羽大学歯科補綴学第2講座 助手
- 1994年 東京都渋谷区 原宿デンタルオフィス 勤務
- 1997年 札幌市中央区 千葉歯科クリニック 開業

【現在】

- 医療法人豊翔会 理事長
- 日本補綴歯科学会 専門医
- 日本臨床歯科医学会 指導医
- 岩手医科大学歯学部 歯科補綴学・インプラント学講座 非常勤講師
- 北海道医療大学歯学部 クラウンブリッジ・インプラント学講座 非常勤講師